

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 令和4年11月4日（金）5校時
児 童 男子15名 女子19名 計34名
指導者 玉山 和彦
場 所 体育館

1 単元名 「だれもがかかわり合えるように」

2 児童について

児童は、テレビを見たり本を読んだり、町の施設を利用したりする中で、障がいのある方のために、どんな施設があるのかについてはある程度知っている。しかし、表面的には分かっているが、障がいのある方と関わる機会がほとんどないため、障がいのある方に対する認識は浅い。そのため、障がいを乗り越えながら社会の一員として生きていく姿に共感したり、そのような方たちの思いや願いに触れ、相手の立場に立ったものの見方や考え方をしたりすることはできていない。また、一人ひとりが自分の課題を持ち、自分で調べ方を考え調査してきた経験が少ないため、調べ方やまとめ方についてあまり分からないのが実態である。

<車いすや白杖についてのアンケート結果>

1	車いすをどんな人が使うか知っている。	97%
2	白杖をどんな人が使うか知っている。	56%
3	実際に車いすを使っている人を見たことがある。	81%
4	実際に白杖を使っている人を見たことがある。	22%
5	車いすを使っている人と、話したり触れ合ったりしたことがある。	22%
6	白杖を使っている人と、話したり触れ合ったりしたことがある。	3%

車いすについては、病院や高齢者施設等で実際に見たことのある児童が多かった。白杖については、約半数の児童がどういう道具なのかよく分かっていない。実際に白杖を使っている方を見たことのある児童も少なかった。

3 単元の指導構想

(1) 単元について

学区には日詰駅や赤石公民館をはじめ、いくつかの公共施設があり、様々な人たちが利用している。そのため、バリアフリーの設備も整えられている場所も多い。しかし、日常生活の中でそれらの設備に気づいている児童は少ない。また、障がいのある方と触れ合う機会もほとんどない。そこで、本単元では、障がいのある方の話を聞いたり、疑似体験をしたり、ユニバーサルデザインやバリアフリーについて調べたりすることを通して、みんなが生活しやすいまちにするために自分たちにできることを考えていく活動を行う。アイマスク・白杖体験や車いすの体験、ゲストティーチャーの話を聞くことを通して、障がいのある方のことを考えて行動することの大切さを実感させたい。自分たちが疑問に思ったことや調べてみたいと思ったことを課題にすることで、

調べて分かったことを友だちに伝えたいという意欲を持つことができる。

調べたことをもとにポスター等を使って、分かりやすく伝えようとすることは、コミュニケーション能力の育成につながる。さらに地域のユニバーサルデザインやバリアフリーを調べることで、今までとは違った視点で地域のことを見直すきっかけにすることができる。地域に目を向けて考えることで、自分の生活を振り返り、自分の生活を見直すことができる単元である。

(2) 指導にあたって

自分たちの学区が、体に不自由さを抱える方にとって住みやすい場所になっているかを考えさせたい。その上で、自分たちの住んでいる地域には様々な人々が暮らしていることへの理解を深めたい。アイマスク・白杖体験、車いす体験をさせることで、学習への意欲を持たせるとともに、課題意識を明確にさせたい。

一人ひとりが意欲的に活動できるよう、課題別の小グループで調べさせ、タブレットを使いながらポスター等にまとめさせたりする。発表をよりよくするために話し合いの場やリハーサルの場を設定する。

アイマスク・白杖体験や車いす体験では、町の社会福祉協議会と十分な打ち合わせを行ってきたい。また、障がいのある方の思いを知るためにゲストティーチャーのお話を聞く場面を設定する。実感を持って聞くことができるよう疑似体験をした後に設定する。課題追究場面においても、社会福祉協議会を窓口として、障がいのある方への質問、インタビュー等を行っていくようにしたい。

本単元のおけるかかわり合い活動においては、下記のルーブリック評価を指標としながら児童が主体的に学び合い、学びを深めていくことを目指したい。

【めざすかかわり合いの姿】

	3	2	1
聴く力	・障がいのある方の日常生活には、どのような大変さがあるか、それらをどのように解決しているのかに気を付けて、目と心を向けて反応しながら話を聞く。	・障がいのある方の日常生活には、どのような大変さがあるか、それらをどのように解決しているのかに気を付けて、目を見て話を聞く。	・障がいのある方の日常生活には、どのような大変さがあるかを聞こうとする。
伝える力	・障がいのある方は、日常生活にどのような大変さがあるのかを知り、目的を明確にしてインタビューすることができる。 ・調べたことをもとに、自分たちにできることを考え	・障がいのある方は、日常生活にどのような大変さがあるのかを知り、インタビューを考えることができる。 ・調べたことをもとに、自分たちにできることを考え	・障がいのある方にインタビューしようとする。 ・調べたことを伝えようとする。

	友達に分かりやすく伝える。	伝える。	
広げ深める力	・体験したことや調べたことをもとに、障がいのある方の立場に立って考え、自分にできることを実践する。	・体験したことや調べたことをもとに、障がいのある方の立場に立って考え、自分にできることを実践しようとする。	・体験したことや調べたことをもとに、障がいのある方の立場に立って考えている。

4 単元の指導計画

(1) 目標

福祉に関わる体験活動を通して、障がいのある方の立場に立って考え、行動することの大切さに気づき、自分ができていることを考えることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 自分たちの身の回りには様々な障がいやハンディをもった人たちがいること、たくさんバリアがあること等を理解している。</p> <p>②障がいをもつ方たちの思いを知るために、目的を明確にして話を聞いたり、質問したりしている。</p> <p>③様々な障がいやバリアがあることへの理解は、障がいをもつ方々の暮らしぶりやバリアについて学習してきたことの結果であることに気付いている。</p>	<p>①疑似体験や校区探検から福祉についての問題を見つけ出し、課題を明らかにしている。</p> <p>②課題解決に必要な情報を体験活動やインタビュー等から収集している。</p> <p>③課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④福祉について分かったことを地図や写真を使ってポスター等にまとめている。</p>	<p>①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②グループの活動で積極的に意見交流しようとしている。</p> <p>③体験したことや調べたことをもとに、障がいのある方や高齢者の立場に立って考え、自分にできることを実践しようとしている。</p>

(3) 指導計画と評価計画

時	ねらい 学 習 活 動	評価規準・評価方法		
		・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		知	思	態
1	・「地域の安全を守る」の学習を振り返り，スロープや点字ブロックがあったことを思い出し，だれのためにあるものかを考える。	・知① 行動観察		
2	・「バリアフリー」・「ユニバーサルデザイン」の意味を知る。	・知① 行動観察		
3	・障がいにはどんなものがあるのかを調べる。	・知① 行動観察		・態① 行動観察
4 └ 5	・車いす体験，アイマスク体験をする。	・知①② 行動観察	・思①② 行動観察	
6	・疑似体験をした感想や疑問に思ったことをまとめる。		・思①② 行動観察	・態①② 行動観察
7 本 時	・身体に障がいのある方を招いてお話を聞き，障がいのある方への理解を深める。	・知② 行動観察	・思①② 行動観察	
8	・自分や自分の身の回りを考え，暮らしの中に不自由さを感じる人がいることに気付く。	・知① 行動観察		
9	・校舎内のバリアフリーやユニバーサルデザインを探す。		・思① 行動観察	・態①② 行動観察
10	・疑似体験や校舎内の調査をもとに学習課題を作り，活動の計画を立てる。		・思① 行動観察	・態①② 行動観察
11 └ 14	・課題を解決するための追及活動を行う。		・思③ 行動観察	・態① 行動観察
15 └ 18	・調べたことをもとにポスター等にまとめる。		・思②④ 行動観察 ポスター	・態② 行動観察
19 └ 20	・中間発表会をする。	・知③ 行動観察	・思④ 行動観察 ポスター	

21	・発表を聞き，自分たちにできることを考え交流する。	・知③ 行動観察		・態②③ 行動観察
22 ～ 24	・グループで，自分たちにできることを考え，提案する資料を作る。		・思③ 行動観察	・態②③ 行動観察
25	・ゲストティーチャーを招き，自分たちの考えた提案を報告する。	・知③ 行動観察	・思④ 行動観察 ポスター	

5 本時の指導計画

(1) 目標

障がいのある方の話を聞き，その方の状況や環境，思いを知ることによって，障がいに対する理解を深め，相手の立場になって考えようとする気持ちを養う。

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
身体に障がいのある方の話から，日常生活の様々な場面に困難さがあることや，その解決方法を知り，相手の立場になって考えることの大切さに気付いている。	体に障がいのある方の話から，日常生活で，どのような時に困るのか，具体的な場面を補足説明する。

(3) 展開

	学習活動と学習内容（・児童の反応）	指導の手立て・支援策
導 入 7 分	<p>1 前回のキャップハンディ体験の時間を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段差をおりるとき，ガタンとしてこわかった。 ・マットの上を押すのが大変だった。 <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>車いすの方のくろうやくふうを知ろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験の写真をプロジェクターで映し出し，体験の様子を想起させるとともに，大変だと感じたことを確認する。 ・ゲストティーチャーの近藤英一さんを紹介する。 ・体の不自由な方の日常の生活の様子や思いを聞くことを確認する。

<p>展 開</p>	<p>3 近藤英一さんのお話を聞いて障害のある方の変さや思いを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごい。一人でそんなこともできるんだ。 ・なるほど。そういうことが困るんだ。 ・そうか、そういうことが大変なんだ。気づかなかったな。 ・そういう道具があれば便利なんだ。 ・こんなことをしてもらおううれしいんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に疑問に思うこと、聞いてみたいことを考えさせておく。 ・お話の中で自分が聞きたいと思っていたことがあるか、注意して聞くようにさせる。 ・大切だと思うことはメモを取りながら聞くようにさせる。 ・<お話を聞く時のポイント>を確認しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすの方の日常生活で困っていることはどのようなことか。 ・困っていることをどのように解決しているのか。 ・車いす生活をしている方の日常生活を支える道具にはどのようなものがあるか。 </div>
<p>35分</p>	<p>4 ゲストティーチャーに聞いてみたいことを質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～するときは、どうやってやるのですか。 ・大変だなと思うことはどんなことですか。 ・周りの人たちにやってほしいことはどんなことですか。 ・私たちにできることはどんなことですか。 <p>5 今日の学習で感じことを発表し交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段気づかなかったことが障害になっているということが分かりました。 ・私たちの身の回りにはたくさんの障害があることが分かりました。 ・いろいろなことを自分の力でやっていることに驚きました。 ・周りの人にこんなことをして欲しいということが分かりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中の困っていることを中心に質問するようにさせる。 ・事前に考えていなかったことでも、お話を聞いて、聞いてみたいと思ったことは質問させる。 ・障害のある方の思いを聞くようにさせる。 ・お話を聞いて感じたことを、ペアの子と交流する。 ・お話を聞いたことや車いす体験したことをもとに、感じたことをワークシートに書かせる。 ・自分たちが気付かない日常生活の様々な場面にバリアがあること、障がいのある方の立場に立って考えることの大切さに気付かせる。
<p>終 末 3 分</p>	<p>6 本時の振り返りをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック表を振り返り、自分がどのあたりの指標だったかを確認し、振り返らせる。